

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	社会福祉法人 巡音会 特別養護老人ホーム パレット	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県刈谷市東境町大池25番1ほか8筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域(用途地域なし)	平均居住人員	243人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,700時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年10月8日
敷地面積	5,654 m ²	作成者	山田 健博
建築面積	1,623 m ²	確認日	2019年10月28日
延床面積	5,469 m ²	確認者	三宅 毅



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★☆☆ B+: ★★☆☆☆ B: ★☆☆☆☆ C: ★☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 99% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 99% (46 kg-CO₂/年・m²)

④上記+: 99% (46 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>10.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル												
		0.4	2.9	0.15	2.8	2.8	1.00				2.8	
1.2 遮音												
		3.0	3.0	0.40		3.0	0.40				2.9	
		0.4	3.8	0.40		3.6	0.40					
	1			0.40		5.0	0.30					
	2			0.60		3.0	0.30					
	3			-		3.0	0.20					
	4			-		3.8	0.20					
1.3 吸音												
		0.3	2.4	0.35	2.4	2.4	1.00				2.4	
2 温熱環境												
2.1 室温制御												
	1	0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.50					
	2	3.0	3.0	0.38		3.0	0.57					
	3	3.0	3.0	0.25		3.0	0.43					
	3	3.0	3.0	0.38			-					
2.2 湿度制御												
		3.0	3.0	0.20		3.0	0.20					
2.3 空調方式												
		3.0	1.0	0.30		1.0	0.30					
3 光・視環境												
3.1 昼光利用												
		0.2	2.8	0.25	3.1	3.1	1.00				2.9	
		0.3	3.0	0.30		3.6	0.30					
	1	3.0	3.0	0.60		4.0	0.60					
	2	-	-	-		3.0	-					
	3	3.0	3.0	0.40		3.0	0.40					
3.2 グレア対策												
	1	0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.30					
	1	5.0	3.0	1.00		4.0	1.00					
3.3 照度												
		3.0	2.0	0.15		1.0	0.15					
3.4 照明制御												
		3.0	3.0	0.25		3.0	0.25					
4 空気質環境												
4.1 発生源対策												
		0.2	3.9	0.25	3.6	3.6	1.00				3.8	
	1	0.5	4.0	0.50	4.0	4.0	0.63					
4.2 換気												
		3.0	4.0	1.00		4.0	1.00					
		0.3	3.0	0.30		3.0	0.38					
	1	3.0	3.0	0.50		3.0	0.33					
	2	3.0	3.0	-		3.0	0.33					
	3	3.0	3.0	0.50		3.0	0.33					
4.3 運用管理												
		0.2	5.0	0.20			-					
	1	3.0	3.0	-			-					
	2	3.0	5.0	1.00			-					
Q2 サービス性能												
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ												
		0.4	3.0	0.40	4.4	4.4	1.00				3.3	
		0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60					
	1	3.0	3.0	-		5.0	1.00					
	2	3.0	3.0	-		3.4	-					
	3	3.0	3.0	1.00			-					
1.2 心理性・快適性												
		0.3	3.0	0.30	3.5	3.5	0.40					
	1	3.0	3.0	-		4.0	0.50					
	2	3.0	3.0	-			-					
	3	3.0	3.0	1.00		3.0	0.50					
1.3 維持管理												
		0.3	3.0	0.30			-					
	1	3.0	3.0	0.50			-					
	2	-	3.0	0.50			-					
2 耐用性・信頼性												
		0.3	2.9	0.31			-				2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振												
		0.4	3.0	0.48			-					
	1	3.0	3.0	0.80			-					
	2	3.0	3.0	0.20			-					
2.2 部品・部材の耐用年数												
		0.3	3.0	0.33			-					
	1	-	3.0	0.23			-					
	2	-	3.0	0.23			-					
	3	-	3.0	0.09			-					
	4	-	3.0	0.08			-					
	5	-	3.0	0.15			-					
	6	-	3.0	0.23			-					
2.4 信頼性												
		0.1	2.6	0.19			-					
	1	3.0	3.0	0.20			-					
	2	3.0	2.0	0.20			-					
	3	3.0	3.0	0.20			-					
	4	3.0	3.0	0.20			-					
	5	3.0	2.0	0.20			-					

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	3.5	3.5	1.00	3.4	
3.1 空間のゆとり		②	1階の共用部分は4.0m。その他の居室階は3.75m。 壁長さ比率は、0.11617	0.3	4.6	0.31	4.0	4.0	-	0.50	
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	4.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	4.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	0.50	-	-
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	-	-
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-	-
2	給排水管の更新性	3.0	3.0	0.17	-	-	-	-	-		
3	電気配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	-		
4	通信配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	-		
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-	-		
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	2.2	
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										2.8	
LR1 エネルギー						0.40				3.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.82、BEIm=0.99	3.0	4.8	0.30	-	-	-	4.8	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				3.0	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
4 効率的運用				0.2	2.0	0.20	-	-	-	2.0	
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	1.0	0.50	-	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30				2.7	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.4	0.63	-	-	-	2.4	
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	-	3.0	3.0	0.24	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30				2.7	
1 地球温暖化への配慮		①		-	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
2 地域環境への配慮				0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自	管理用駐車場の確保、乗入2つ設置し出入りの分散	-	4.0	0.25	-	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	
1 騒音		独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-	
2 振動		独自		-	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20	-	-	-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策				-	1.0	0.70	-	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

社会福祉法人 巡音会 特別養護老人ホーム パレット

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:10.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 近隣住宅から離す建物配置、敷地周辺の緑化、リハビリ用の畑の設置、屋上庭園の設置などにより、代々のこの土地で医師として活動してきた法人が、地域的に農業従事者が多い近隣住民、建物利用者、職員に対して、愛着の持てる建築を目指した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 2～4階の共同生活室など、外部に面していない居室は、中庭を設けて自然採光、自然換気ができるように配慮している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 居室1床あたり、12.82～13.50㎡を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 限られた敷地内で駐車スペース、敷地周辺を緑化している。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ適合性判定に準拠している仕様としている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 一般的に標準的な仕様を採用している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 国および地方公共団体で定められている基準に適合した設計としている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。